

相乗効果を生む モバイル・トレーニング・ユニットの導入 スワップボディの共同利用など 協業化が必要な時代

五十嵐 明生氏 (株)ニトリホールディングス 上席執行役員
(株)ホームロジスティクス 代表取締役社長

いつ頃からだろうか…。全国へ出張する先々でグリーンの『ニトリ』の看板が目に入るようになった。「お、ねだん以上。ニトリ」のCMキャッチコピーでしられる株式会社ニトリは、家具業界では珍しく製造小売業(SPA)のノウハウを取り入れ、「海外原材料の仕入→現地生産→輸入→店舗販売→商品配送」までほぼグループ直営で行うことで差別化。物流は札幌(北海道札幌市)・関東(埼玉県白岡市)・関西(兵庫県神戸市)・九州(福岡県糟屋郡大川市)に拠点となる直営の物流センター(DC)を構え、本来なら商社が仲介する通関を含めた貿易業務までも自前で行うことで、製造小売りのみならず中間物流・配送まで自社による一貫体制を構築している。この物流を一手に担うのが2010年に発足した株式会社ホームロジスティクスである。同社がこの7月に発表したモバイル・トレーニング・ユニット(移動型納品訓練車)は、その機能も役割も世界唯一、ニトリの意気込みを見事に現している。今回はモバイル・トレーニング・ユニットを導入した(株)ホームロジスティクスの五十嵐明生社長に、同社のロジスティクスへの取り組みを伺った。

■ニトリ物流部から独立したホームロジスティクス

□横路 ホームロジスティクスさんはニトリの物流部から分離・独立していますが、ニトリの物流部は何年くらい続いたのですか。

■五十嵐 ニトリの創業は1967年です。当初は創業者の似鳥昭雄現ニトリHD会長が個人的にスタートし

ていますから、商品をお買い上げ頂くと自分で届けていました。ですから、ニトリの物流は創業当時に遡ることになります。会社組織にしたのは1972年ですが、ニトリの物流への挑戦は、1980年、札幌物流センターに当時業界初であった6階建ての「自動立体倉庫」の導入したことが第一歩になります。

□横路 ニトリにご入社当時はどんな状況だったのですか。



ホームロジスティクスの五十嵐明生社長

■五十嵐 私は1986年の入社ですから会社になって14年目ですが、札幌を中心に自社便7~8台で納品していました。やがて札幌だけでなく函館、苫小牧、旭川など道内の地方都市にニトリのお店が出来て来ましたので、札幌のDCより、道内地方店舗へ商品搬入し、各地で業務委託した運送業者様から配達を行う様になりました。

□横路 似鳥会長が創業なさって、国内だけでなく海外にもお店を展開するインテリア販売の大企業になるまでの期間がニトリさんは極めて短いんですよね。

■五十嵐 似鳥自身は、当初から30年計画を立てて店舗展開を推進して来ましたので早いとは感じていな

いと思います。私は30年計画の中頃の入社ですが、その頃から似鳥は未来の姿を想定した発言を繰り返していました。いわゆる有言実行をしてきました。

□横路 ニトリさんの商品は家具などインテリアですから生活に直結しています。いわゆる機能性、ファッション性などお客様ニーズがきめ細かく反映された商品ですから、お買い上げ頂いたお客様に届ける際も細心の気配りが必要なのではないかと思います。そういう意味ではニトリの物流を担うホームロジスティクスさんの役割は極めて大きいのではないかと思います。

■五十嵐 ニトリの取扱い商品は家具など大型商品が中心ですので、物流は切っても切り離せない事業です。私が入社したのは約35年前ですが、ニトリは



車体の前方がせり上がって住宅の2階部分を創出



せり上がった2階部分は車体左側に窓があり、家具などのつり上げ荷役の研修ができる

その頃に家具の輸入を開始しました。輸入家具は40フィートの国際コンテナで大量に運び込まれますから、物流がニトリ経営の重要な役割を担うことになります。お店を全国に展開すると物流のボリュームも大きくなり、トラック運送事業者さんに協力を願って実務を熟すことになります。

□横路 本誌はトラック運送事業者さんとのご縁が割に多いのですが、事業者は物を運ぶだけでなく、運転者の教育とかも含めてプロ意識が高いですね。

■五十嵐 そうですね。当社もお付き合いの長い運送事業者さんが多くなって来ましたが、皆さん熱心です。

□横路 商品だけでなくお客様の家屋、室内も傷つけると大変なことになってしまう。やはり荷扱いは日頃の経験が大事なんですね。

■五十嵐 そうです。でも誰もが最初からプロ並みの荷扱いを身に着けている訳ではないので、日頃の訓練も必要です。

□横路 なるほど、経験の浅い人が届けると商品やお客様の室内を傷つけるトラブルが起きかねません。

■五十嵐 ですから当社は定期的に商品の取扱いや接客のあり方まで含めて、東西2ヶ所で実務研修会を行っていました。

■付加価値の大きいモバイル・トレーニング・ユニット

□横路 その実務研修会をこちらから出掛けて開催する目的で開発したのが、先月号で紹介したモバイル・トレーニング・ユニット(移動型納品訓練車)ですね。(8月号50P参照)

■五十嵐 そうです。これまでも東西2ヶ所で納品の訓練は行っているのですが、必要な機能をトラックに搭載すれば、いつ何処でも訓練を行うことが出来ます。効率的ですし、受講者の出張・宿泊費も低減でき

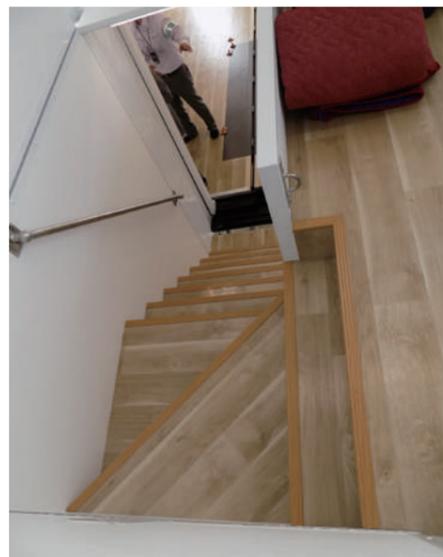
るので協力会社様の負担も軽減できます。

□横路 モバイル・トレーニング・ユニットは先般、御社の川崎物流センターで発表された際に、内部まで詳しく拝見させて頂きましたが、実に良く出来ていると思いました。大型トラックの車体を二階建て家屋と同じ間取りに設計して、曲がり階段での家具の上げ下ろし訓練も出来る車両は世界初だと思います。

■五十嵐 箱形の車体を左右に拡幅して、更に一部をせり上げて二階部分を創出する構造は当社で考えておりましたが、実際に造り上げて頂いたのはオオシマ自工さん(山口県柳井市)です。このモバイル・トレーニ



拡張した室内には TV モニターやボードもあり、室内研修ができる



二階室から見た曲がり階段



ソファを入れるとリビングルームになる



室内はエアコンも完備している



五十嵐社長と対談する本誌・横路(右)

ング・ユニットが完成したことで、納品の訓練を効率的に行うことが出来るようになりましたので、ニトリ商品の配送品質は更に向上することになります。

□横路 私は過去に引越し事業者の取材を何度か行いましたが、同じように心配りが大切なお仕事だと思いました。

■五十嵐 そうですね。引越しの場合は事前に下見をして実施する場合がありますが、当社の場合はその下見が出来ません。ですから、あらゆる現場を想定して準備する。どんな現場でも熟せるように事前の訓練が必要になる訳です。

□横路 物流の世界ではよく“輸送品質”という言葉を使いますが、荷の取扱いが丁寧であるとか、輸送時間が短縮されるとか、お客様とのコミュニケーション能力まで含めて、いわゆる大切なのは付加価値の部分ですよ。

■五十嵐 確かに訓練することによって荷扱いが良くなる、時間が短縮される効果がありますが、今回のモバイル・トレーニング・ユニットは「ニトリはここまでお客様の事を考えているのか」というイメージアップ効果も大きいと考えています。

□横路 確かに誰もやった事のないことにチャレン

ジするのは冒険でもあります。成功した際の効果も大きい。

■五十嵐 これは「住まいの豊かさを世界の人々に提供する、というロマン(志)を社員一人ひとりが企業行動の原点として共有する。」というニトリの理念にも通じるのだと思いますが、お客様を第一に考えて、あらゆる手段を尽くすという事だと思います。

■スワップボディも共同化を進める時代

□横路 そうですね。モバイル・トレーニング・ユ

ニットは今年10月1日～3日まで本誌が幕張メッセで開催する2019・ITV次世代ビークル展にもご出展頂きますが、車両だけでなく御社の意気込みも観て頂きたいと思います。

ところで、ニトリから分離・独立したホームロジスティクスさんは、研修などでノウハウが蓄積されますから、物流そのものを商品とする、つまり親会社に貢献するのは当然としても、ニトリ以外へもビジネス展開が出来ると思います。その点はいかがですか。

■五十嵐 当社はニトリの子会社ですから、親会社に貢献するのは当然ですが、その他にもニトリグループ



走行姿勢



後部ドアを跳ね上げて階段を開く



階段を上ると玄関のドアを開けることができる



左右に拡幅すると広い部屋が創出されている



窓から吊り上げて搬入する訓練

の物流ノウハウを他社へもご提供する外販事業展開も開始しています。

□横路 企業は生き物とよく言われますが、親は自立する我が子が誇らしく、喜びでもあります。保管機能や輸送能力など物流技術が蓄積されますと、御社に物流を依頼される荷主も増えてくると思います。

■五十嵐 すでにその外販活動には積極的に取り組んでいます。物流ノウハウを蓄積することで売上げが拡大すると考えています。

□横路 その物流技術の一例ですが、御社は既に脱

着式車両(スワップボディコンテナ)を導入しておられます。この車両は荷役と輸送を分離することで、輸送効率を上げる効果がありますので、ドライバー不足、働き方改革への対応として国土交通省も補助金を用意して推奨しています。

■五十嵐 そうですね。シャシ1台に対してコンテナ3の割合ですが、ドライバーさんも運転に専念できるので好評です。

□横路 私は、このスワップボデーは。一企業よりも複数企業が共同で運用する方が効果が大いのではないかと考えています。

ご承知の通り、パレットは11型をJISで標準化することで、レンタルが普及しています。脱着車のボディ(荷箱)をこのパレットと同じように考えれば、更に有効利用できます。ただ、その為には全てのボデーの動きを正確に把握して、ネット上に空き情報などを公開して、利用者がタイムリーに使えるようなシステムを構築する必要があります。ひと昔前ですと、かなりハードルが高かったシステムですが、情報処理技術が高度化した現代では可能ではないかと思っています。

■五十嵐 そのシステムは、ある意味では同業他社との協業化だと思います。これからは様々な分野でアライアンスを考えていく時代ですから、我々のような物流業者が率先して取り組む課題かも知れません。

□横路 今日では大手の宅配事業者さんも、効率を上げるために私鉄やバス会社と共同して荷物を運んでいます。過去の概念に囚われていると置いてけ堀を喰らってしまいます。(笑)

本日はご多忙のところを有り難うございました。